



The Kyoto University Library Bulletin

医学部図書館の竣工を祝う

堀 江 保 蔵

待望の医学部図書館が竣工し、ここにその式を挙げられますことは、まことに欣快に堪えないところであります。

申すまでもなく、図書館は大学における研究および教育を推進する上の中心機関でありまして、その設備・機能が整備・充実しているかどうかは、研究および教育の進歩に至大の関係があります。京都大学附属図書館におきましては、昨年末に図書館改善特別委員会を設け、部局図書室を含めて全京大図書館の近代化の方途を検討致しております。未だ結論に到達してはおりませんが京大のような大きな総合大学の図書館について描かれるべき姿の一つは専門分野に応じていくつかの研究図書館(research library)があり、中央図書館は学習図書館(undergraduate library)の機能を発揮すると同時に、研究図書館の機能を総括するような役目を果たすことであります。このようなヴィジョンから見まして、このたびこの図書館が竣工し、医学部・病院・結核研究所、およびウィールス研究所の図書室を糾合して、医学に関する専門図書館として新たに発足されることになりましたこと



医学部図書館正面

は、京大図書館が進むべき途を具体的に示されたものでありまして、喜びに堪えないと同時に、非常な心強さを覚える次第であります。

わが国全体を眺めても、広く世界的に見ましても、研究図書館の制度が最も発達し、したがって図書館相互の協力関係が最も緊密に結ばれているのは、医学の分野においてであります。この図書館の建設は、このような背景があつてのことだとは存ぜられますが、それにしても、これまで部局ごと教室ごとに分散していた図書館機能を統合・拡充することに踏み切られた医学部長はじめ教官各位のご理解とご勇断とに深い敬意を捧げなければなりません。同時に、この図書館が蔵書構成・設備・職員組織を整備充実し、医学に関する専門図書館として、京大医学の高い水準にふさわしい機能を発揮されますことを、深くご期待申上げる次第であります。

以上をもってお祝いのことばと致します。(附属図書館長)